

「巡検会報告」

宮崎県鞍岡地域の中古生界

坂本 大輔*

5月12日(日)、宮崎県高千穂および五ヶ瀬地域の巡検が行われた。朝8時半に熊本大学の大教センター前を出発した。途中で2回休憩をとり、11時半頃に最初の目的地に着いた。

最初の地点は、高千穂黒仁田(Stop1)である。ここでは、三疊紀後期ノーリアン(およそ2億2000万年前)のメガロドンを採集した。メガロドンは熊本県球磨川鎗倒の瀬に代表的な露頭があり、各地の三宝山帯で報告されている。しかし、いまだ宮崎県からは報告はされておらず、貴重な資料になるとのことだった。柘の滝鍾乳洞の東の沢を登っていくと、転石でいくつか見つけることができた。化石採集後、昼食をとり、次の目的地である五ヶ瀬中登岳(Stop2)へ向かった。

五ヶ瀬中登岳(Stop2)では、デボン紀後期(およそ3億7000万年前)の腕足貝、ウミユリおよびサンゴ化石を採集した。産出する腕足貝は、新潟大学の田沢純一先生の鑑定によれば、東北地方の南部北上帯蔭ヶ森層から産出するものと類似するとのことだった。岩相はまれに砂岩層をはさむ泥岩からなる。走向はほぼ東西であり、傾斜は西へおよそ20°である。化石は泥岩の部分から産出した。ウミユリ、サンゴ化石はよく採集できたが、腕足貝はわずかしか採集できなかった。

その後、無事事故もなく大学に戻り、解散した。三疊紀とデボン紀のそれぞれの化石を採集することができ、大変有意義な1日になった。最後に、今回の巡検にあたり終始丁寧な説明をしていただいた田中均先生にお礼申し上げて、巡検報告とする。

*熊本大学教育学部大学院

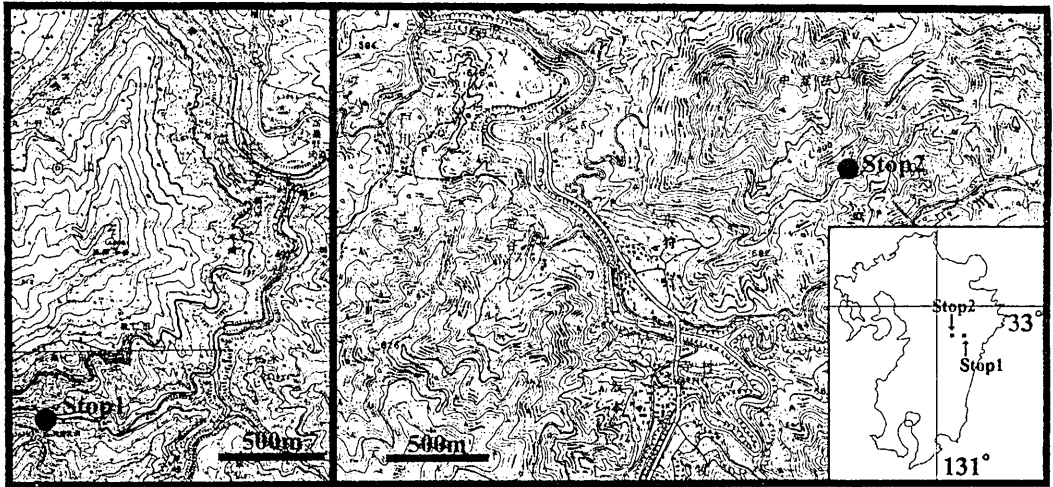


図1 観察ポイント（国土地理院発行2万5000分の1地形図「三田井」「諸塚山」「鞍岡」を使用）



写真-1 高千穂黒仁田（Stop1）のメガロドン石灰岩



写真-2 五ヶ瀬中登岳（Stop2）より産出した腕足貝（×1.5）

発行所	
熊本地学会誌	No. 130
熊本市黒髪2丁目	熊本大学教育学部
地学研究室内	熊本地学会
TEL 344-2111	振替01960-2-5359